

令和4年12月23日

第6学年保護者の皆様

旭川市立神楽小学校
校長 荒川 義 弘

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果

4月19日に実施されました全国学力・学習状況調査の結果につきましては、すでに個人票を配付しておりますが、こちらは6年生全体の傾向としてのお知らせになります。長期休みの際の学習資料として、また中学校に向けての振り返りの際の参考資料として活用いただければと考えております。全国・全道平均と本校の児童の結果を比較しながら分析いたしております。先日、お渡しした「個人票」と合わせてご覧ください。また、生活習慣や学習環境等に関する児童への質問紙調査についての傾向もお知らせします。

教科に関する調査・質問紙調査から見られる6年生の傾向と授業改善

学習指導要領の領域の平均正答率の状況

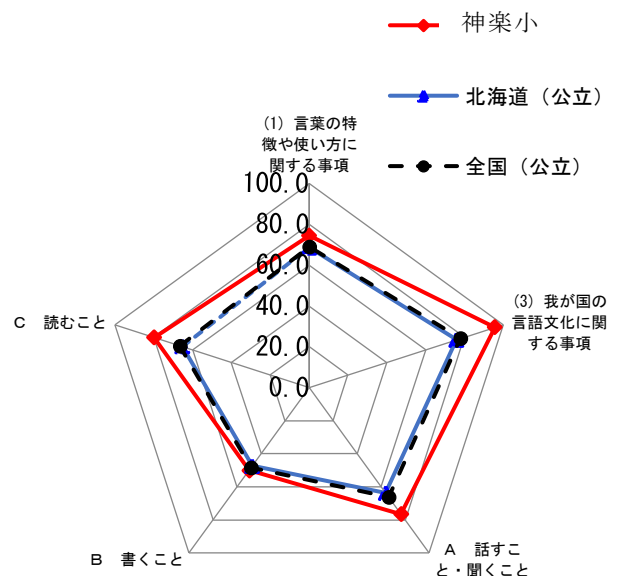
(1) 国語

<特によくできていた問題>

- ①言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉えることができるかどうかをみる問題。
- ②登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問題。
- ③登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題。
- ④人物像や物語の全体像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題。
- ⑤漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くことができるかどうかをみる問題。

<課題の見られた問題>

- ⑥互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。
- ⑦文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるかどうかをみる問題。
- ⑧学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題。



<分析>

国語の平均正答率は、全国・全道平均を大きく上回る結果となっています。領域別に見ていきますと、「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」、「読むこと」(②③④)において、特により結果となっています。

一方、課題となりました領域は「書くこと」(⑥⑦)です。全国・全道平均よりは若干上回りましたが、この領域では正答率が低い結果となった問題があります。記述式の問題で、文章にある言葉や文を取り上げる事、また60字～100字以内で書く事等、3つの条件を満たして記述しなければ正答とならない問題形式でした。また、正しく漢字を使用できるかを等問題⑧についても課題が見られました。漢字の書き取りの問題で、3問のうち1問が全道の平均を下回りました。漢字の書き取りに若干課題が残る結果となっています。

<改善>

落ち着いた問題文を読み、条件にあった記述ができる力をつけること。また文章にまとめたり、書き表したりする表現活動の際に既習の漢字をできるだけ活用して書くという指導について見直します。(タブレットのアプリでまとめる活動を再度見直します)

学習指導要領の領域の平均正答率の状況

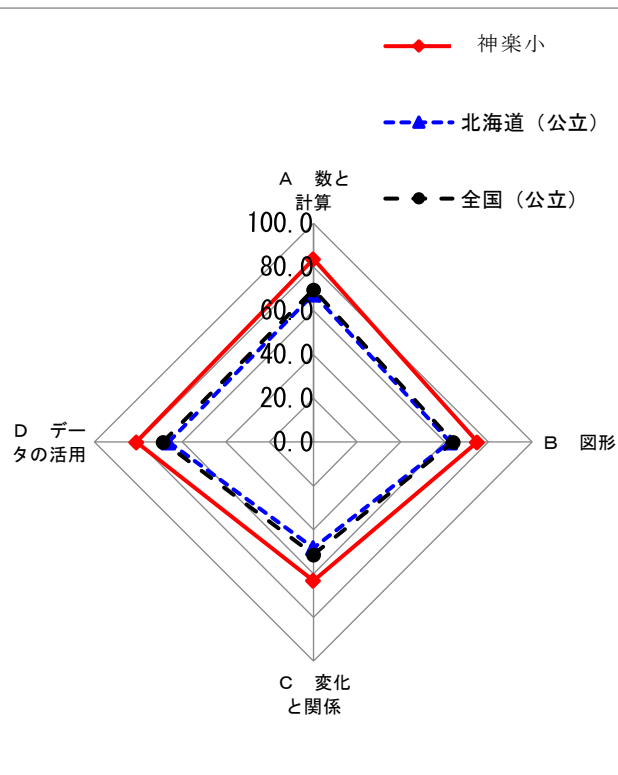
(2) 算数

<特によくできていた問題>

- ①示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題。
- ②伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えや式を用いて記述できるかどうかをみる問題。
- ③分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できるかどうかをみる問題。
- ④加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題。

<課題の見られた問題>

- ⑥示された場面のよう、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかどうかをみる問題。
- ⑦正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題。



<分析>

算数の平均正答率も国語と同様に全国・全道平均を大きく上回りました。また、全ての問題（16問）について全国平均を超えておりました。問題形式で見ても例年の課題となっていた言葉や式などを用いて解き方を文章で記述する問題の正答率が高く、記述への苦手意識が見られない結果となっています。しかし、割合の基本的な考え方を問う問題（⑥）や正三角形の書き方についてのプログラム（プログラミング）についての問題（⑦）は全国の上回っておりますが、他の問題の正答率と比べると課題として捉えることができます。

<改善>

- ・これまでの取組を継続し、高い正答率の中でも課題とみられる問題を洗い出し、授業や家庭学習、朝学習の時間を活用して繰り返し復習に取り組みます。

(3) 理科

全国学力・学習状況調査では3年に一度、理科が入ります。今年度は理科も調査に含まれております。その結果と分析をお知らせいたします。

<特によくできていた問題>

- ①問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題。
- ②自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる問題。
- ③メスシリンダーという器具を理解しているかどうかをみる問題。
- ④自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる問題。
- ⑤実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかをみる問題。

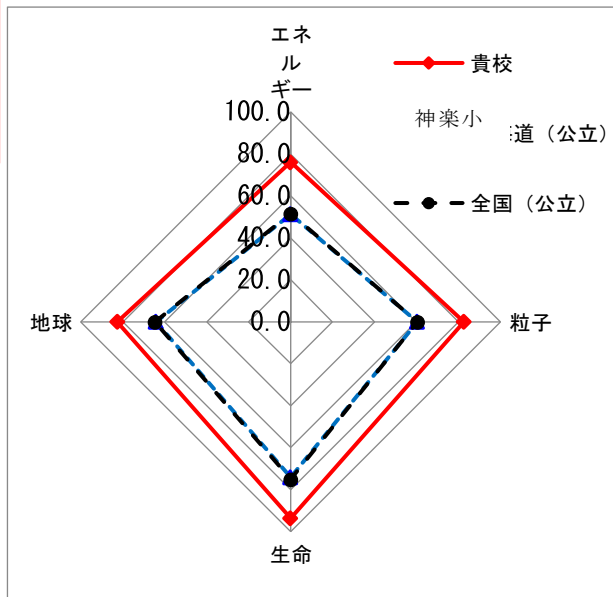
<課題の見られた問題>

- ⑥日光は直進することを理解しているかどうかをみる問題。
- ⑦観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題。

<分析>

理科の平均正答率も全国・全道平均を大きく上回りました。また、全ての問題（17問）について全国平均を大幅に超えておりました。①については正答率100%で、他の問題（②③④⑤）については全国の正答率から比較すると25%以上上回るという結果が出ております。領域別に見ても、特に課題となる領域はなく、バランス良く理解できています。平均を超えてはいますが、光の問題（⑥）や資料からの分析などを問う問題（⑦）については全国的にも正答率が低く、神楽小も似たような結果が出ており、その点が課題といえます。

学習指導要領の領域の平均正答率の状況



(4) 質問紙

<全道・全国と比べて肯定的な回答が多く、良好と思われる項目内容>

【生活面】

- ・朝食を毎日食べてくる、また同じ時刻に寝たり起きたりしている。
- ・自分にはよいところがある、また先生は自分のよいところを認めてくれている。
- ・自分でやると決めたことは、やり遂げようとしている。
- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
- ・人の役に立つ人間になりたい。
- ・学校に行くのが楽しいし友達と協力するのも楽しい。

【学習面】

- ・休みの日（2時間以上）、平日（1時間以上）学習している。
- ・授業中の調べる場面でのPC・タブレットの活用状況。
- ・課題の解決に向けて自分で考え、すすんで取り組んでいる。
- ・各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動をしている。
- ・学級の話合い活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりしている。
- ・学習した内容について、分かった点やよくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。
- ・総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・国語の勉強は大切だと考えている、またよくわかる。
- ・算数の勉強は好きで、大切であると考えている、また授業がよくわかる。
- ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える、また公式やきまりを習うときに、そのわけを理解しようとしている。
- ・理科の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役立つと考えている。
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立て、その結果からどのようなことがいえるのか考えている。
- ・道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

＜全道・全国と比べて肯定的な回答が若干少なく、改善が必要と思われる項目内容＞

- ・地域の大人に、授業や放課後など勉強やスポーツなどを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。(習い事の先生は除く)
- ・学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどの機器をどの程度(頻度)使用しているか。
- ・普段(平日)、一日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどの機器を勉強のために使用しているか。

【家庭では、引き続き望ましい環境づくりをお願いします】

児童質問紙の回答状況を見ますと、ほとんどの項目において肯定的な回答をした児童の割合が全国・全道を上回る結果となっています。大きな差異がみられた項目は上記のとおりです。また肯定的な回答が少なかった項目は上記の3項目のみという状況でした。これらの結果を踏まえて残りの小学校生活を充実したものに、学校と家庭、そして地域と連携しながら教育活動を推進してまいります。

全国的にも全道的にも「基本的な生活習慣や家庭学習環境が身に付いている」「規則や決まりを守ろうとしている」「ものごとに前向きに取り組もうとする」「他の人々のことを考えようとする」児童ほど学力が高いという傾向にあります。また、「読書意欲が高い」児童は読解力もよく伸びています。

よりよい生活習慣や家庭学習習慣を確実に身に付けるためには、次の点について、引き続き家庭でのご協力をお願いします。

- ・ **毎日、決められた時刻に起きたり寝たりといった生活リズムを整える**
- ・ **家庭学習、読書時間の確保**
- ・ **ゲームやスマホ等利用のルールづくり**